

Graduates Voice

社会で活躍する卒業生たち

01

フランスベッド株式会社 勤務

業種:営業

みずの けんた
水野 堅太さん

社会福祉学部 社会福祉学科
2017年3月卒業

大学で地域福祉、高齢者福祉を中心に学ぶとともに、部活にも熱中。アメリカンフットボール部の主将を務める。これらの経験で得た知識やコミュニケーション力を活かそうと、就職先は福祉用具を扱う会社の営業職を選択。現在はメディカルサービス事業部名古屋営業所に配属され、福祉用具のレンタル営業を主に担当している。



相手と真摯に向き合うことで
喜んでもらえ、自分自身の成長にもなる。

私は車椅子や電動ベッドなどの福祉用具をお客様にご提案する仕事をしています。メインはケアマネージャーの方から紹介いただき、お客様のもとを訪問して商品の選定、提案をするスタイルです。私の部署は主に高齢者の方を対象としているので、日々変化する身体の状態に合わせた対応が求められます。入社当初は「この症状だからこの商品」と、教科書通りの提案が精一杯でしたが、今は自分がお客様だったらどうして欲しいか、少しでも生活しやすくするにはどうしたらよいかまで思考を巡らせ、スピーディーに判断

できるようになりました。こうして物事を広く考えられるようになったのは、仕事を通じて出会った人たちのおかげ。お客様からの「ありがとう」の言葉が、さらに頑張ろうと思わせてくれています。また社会人になって感じたのは、学生時代の成功や失敗と似た経験は何度も訪れるということ。だから在学中に試行錯誤して何かをやり切った、乗り越えた経験は仕事をする上で大きな強み。ぜひ大学生生活の出来事一つひとつを大事に過ごしてください。

02

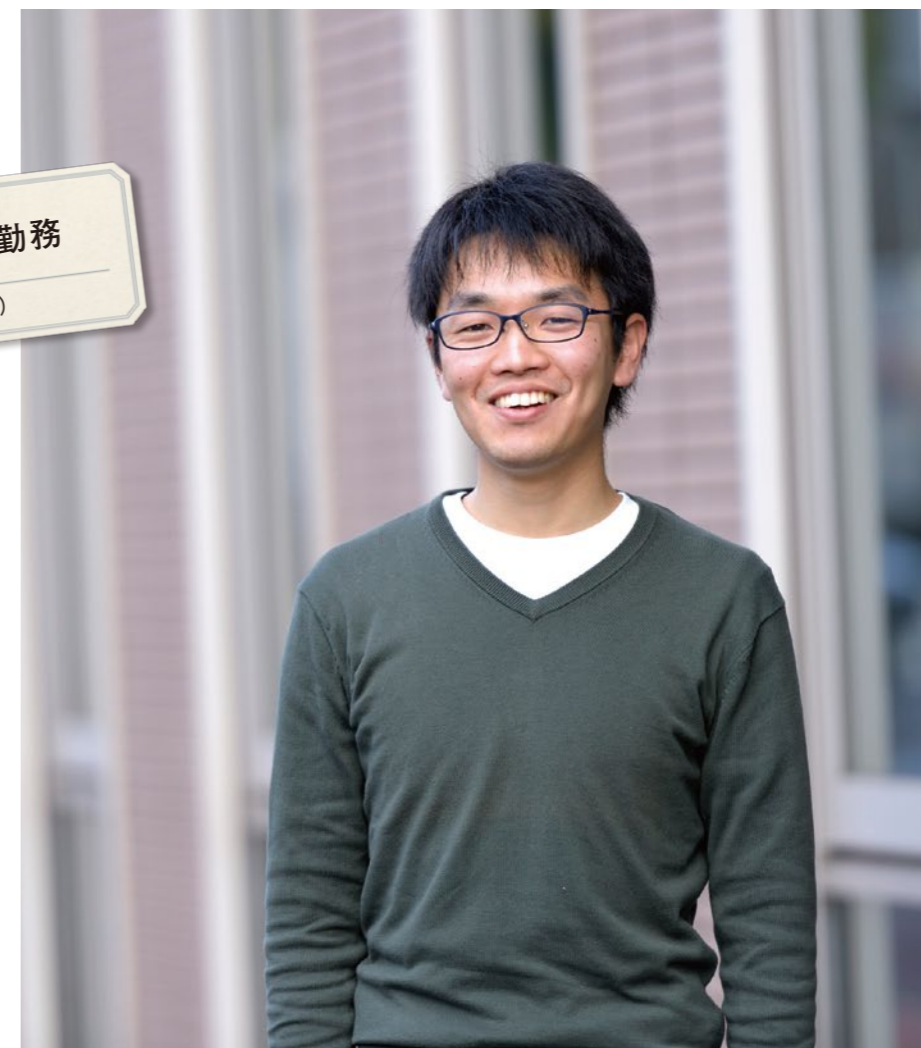
名古屋南区役所 勤務

業種:事務職(社会福祉区分)

なべた ともり
鍋田 朋典さん

健康科学部 リハビリテーション学科
2017年3月卒業

大学在学中、社会福祉士資格取得のための実習で、単身高齢者の自宅を訪問する仕事を知り、「自分もそういう仕事がしてみたい」と思うように。卒業後は名古屋市南区役所に入庁し、現在は生活保護のケースワーカーとして、生活保護費の算定、担当地区の保護受給世帯の家庭訪問などに従事。150世帯ほどを受け持っている。



目ざすのは、いろんな方面から支援ができる
頼りがいのあるケースワーカー。

生活保護のケースワーカーになって2年目。業務は多岐に渡りますが、私が常に意識していることは担当させていただく方が自立できるよう最大限の支援をすることです。そのため、直接お話しする機会はとても大切。限られた時間内で、何にお困りなのかを汲み取り、最善の支援は何かを考える。こうした「その人に寄り添った支援をしていく」という心構えは大学で身に付けたことです。さらに実習では高齢者や障がい者関連などさまざまな施設や現場を経験させてもらったので、今の仕事に就いてから各機関や施設の

方と関わりやすく、施設がどんなところかもしっかり伝えることができます。知識の有無で支援の厚みに差が出るので、今は大学の知見をベースに実践をしながら積み重ねているところですね。対人援助は繊細で難しいですが、その分やりがい大きい仕事。「この人に相談すれば大丈夫」と安心感を持ってもらえるよう、さらに知見を深めていくとともに、大学で講義をするなどして後輩にも想いを伝えていけたらいいなと思っています。